

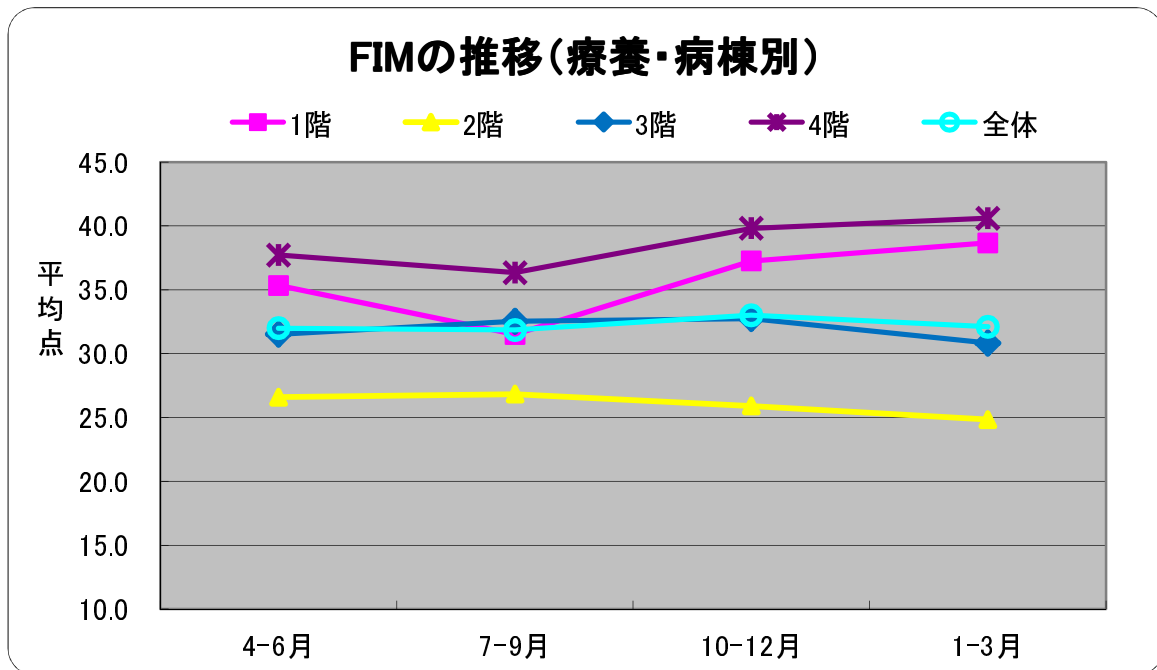
平成27年度 リハビリテーション対象患者のADL調査

<対象>

- ・ 平成27年4月1日から平成28年3月31日の間で3ヶ月以上の入院患者
- ・ FIM評価を実施した214例
- ・ 年齢：83.8±9.8歳
- ・ 性別：男性82名、女性132名

- ※ 除外対象：リハビリ介入に至らなかった患者
- ※ 1階病棟：回復期対象者を除く

<結果>



病棟別	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
1階	35.3	31.5	37.3	38.7
2階	26.6	26.8	25.9	24.8
3階	31.5	32.5	32.7	30.8
4階	37.7	36.3	39.8	40.6
全体	32.0	31.9	33.0	32.1

<まとめ>

4階は在宅復帰対象者も入院しているため、全体的に高値となっている。逆に2階は他の階に比べ重症な患者が多いことが分かる。1階についてはH27年度の対象が年間で5名と少なく、その数字が直接反映している。

療養病棟では時期により多少の変動はみられるものの、年間を通すと比較的安定していることが分かる。

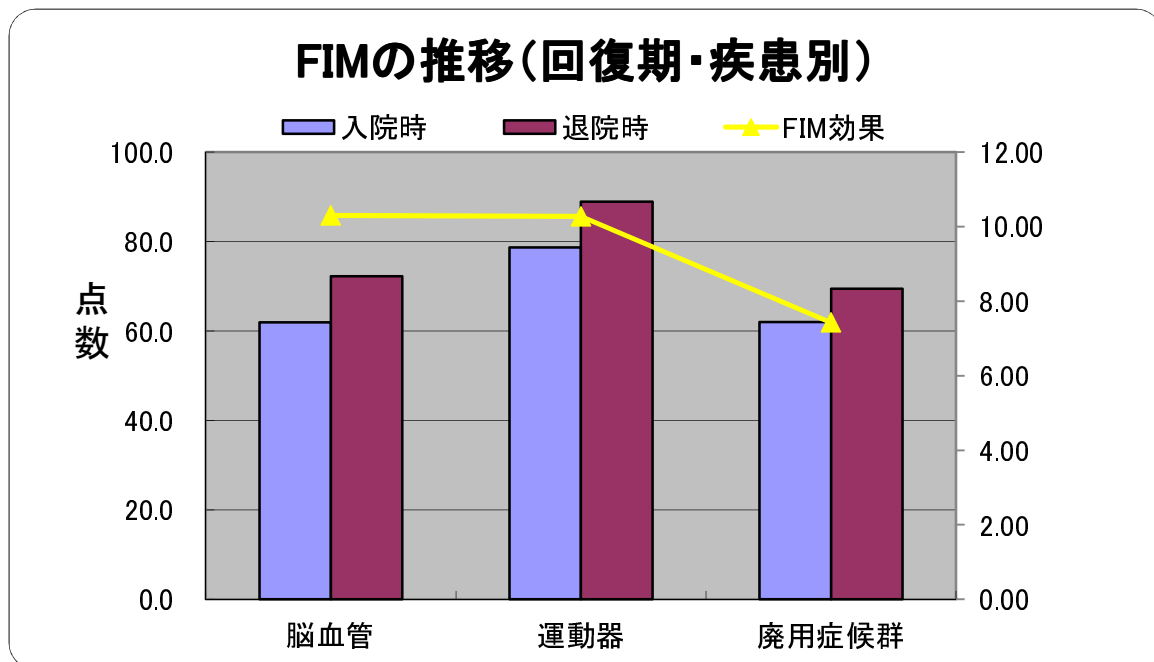
平成27年度 リハビリテーション対象患者のADL調査

<対象>

- ・ 平成27年4月1日から平成28年3月31日の間で、入院から退院まで至った患者
- ・ 回復期病棟の入院時と退院時でFIM評価を実施した111例
- ・ 年齢：78.1±9.8歳
- ・ 性別：男性48名 女性63名

※ 除外対象：リハビリ介入に至らなかった患者

<結果>



	脳血管	運動器	廃用症候群	全体
入院時	61.9	78.7	62.0	68.6
退院時	72.2	89.0	69.4	78.7
FIM効果	10.30	10.27	7.43	10.11
FIM効率	0.09	0.13	0.07	0.10
年齢	74.5	82.9	78.9	78.1
在院日数	114.9	71.4	81.3	95.5

<まとめ>

運動器、脳血管、廃用症候群の順に入院時および退院時の点数が高くなっている。FIM効果で見ると脳血管と運動器は同程度となっており、廃用症候群ではやや下がっている。

在院日数は脳血管や廃用症候群で長くなる傾向にある。FIM効率は全体的に低く、全国平均を大きく下回っている状況。今後はFIM効果を上げながら在院日数の短縮が課題となる。

資料

【全国平均】			
	脳血管	運動器	廃用症候群
入院時	68.5	81.4	64.4
退院時	86.2	98.6	76.6
FIM効果	17.7	17.2	12.2
FIM効率	0.20	0.30	0.22
年齢	72.4	79.0	79.5
在院日数	88.2	56.7	55.9

※ 回復期リハビリテーション病棟協会 平成28年3月 より